

読書のすすめ

読書は教養を深め、豊かな心を育む大切なものであると今までも何度も聞いてきたことと思います。そう言われるのはどうしてなのでしょう。

第一に、本には未知の世界や自分が直接体験できないことなどがたくさん書いてあります。そういう本を読むと、今まで知らなかったことを知ることができるだけでなく、登場人物と自分を重ね共感できたとき、自分以外の人間にも自分と同じように心や思考があり、生きているんだというを感じることができます。こういう体験の積み重ねが、自分自身を見つめる心や他者に対する思いやりの心を育て、人間や社会というものを深く考えることにつながっていくのです。

第二に、本を読めば、必ず新しい言葉や様々な表現方法に出会います。これにより、必然的に語彙（使える言葉）の量が多くなります。これは、考えたり表現をしたりするときに、ものごとを細かく識別したりよりの確に表現したりすることに役立ちます。

第三に、書き手は自分の伝えようとすることを理解してもらうために、読み手の知性に訴えて論理的に述べていきます。読み手がそれを受け止めようと考えながら読んでいくことで、論理的な思考力やものごとを見抜く力がついてくるのです。

自分の興味のある本を読むだけで、こんなに自分を伸ばしてくれるなんてすごいと思いませんか。

ところで、本を読むということは、書いたり話したりすることに比べて、書いてあることをただ受け取ればよい受け身の活動のように思われがちですが、それは違います。読む人が積極的に読もうとしないと、書き手が伝えたいと思っていることや情報をきっちり受け取ることができません。では、どのように読めばよいのでしょうか。

「本を読む本」（M. J. アドラー著）には次のように書かれています。

「読んでいるあいだに質問をすること。その質問には、さらに読書をしつづけている間に、自分自身で回答をするよう努力すること。」

また、どんな本を読む場合でも、本から何かを得るために読者がしなければならない質問として、以下の四つをあげています。

- 一、全体として何に関する本か。
- 二、何がどのように詳しく述べられているか。
- 三、その本は全体として真実か、あるいはどの部分が真実か。
- 四、それにはどのような意義があるのか。（その情報を知ることがなぜ大切なのか）

そして、中学校を修了するころまでには、上の四つのうちの、特に一と二の質問に答えられるような読み方ができることが必要であり、これができてはじめて、さらに高いレベルの読書ができるようになるための準備が整ったことになる」と述べています。

楽しみや好奇心を満足させるものとしての読書もちろん意義があります。しかし、リーダーとして社会に貢献をすることを期待される皆さんには、本から何かを得るために問いかけをしながら読むという積極的な読み方で、教養を深め、豊かな心を育み、自分の世界を広げてほしいと思います。

では、図書室へ行って好きな本を探してみましょう。